

# 学校だより

## 2022年9月から 12月までの資格試験一覧

- 9月4日 品質管理（QC）検定 4級（3年）
- 9月6日 技能士2級電子機器組立実技（3年電気科）
- 10月14日 リスニング英語検定（2年）
- 10月24日 溶接技能者評価試験（JIS検定）（2年溶接科）
- 11月18日 計算技術検定（1、2年）
- 12月10日 危険物取扱検定（全学年）

## 寮 祭

新型コロナウイルスの影響で2年間実施を見合わせていたが、今回3年ぶりに寮祭を実施することができた。現在の在校生全員が寮祭を経験しておらず、企画の段階から寮役員は試行錯誤していたが、夏休み前には内容を決定。フロア対抗にてボディビルコンテスト、女装コンテスト、ダンスコンテスト、フリスビードッジの4種目を実施することになった。休み明けからは、各フロアで練習に励み、8月31日の本番を迎えた。

当日は体育館で実施し、通学生も見学で参加した。ダンスは各フロアで選抜メンバーが趣向を凝らして発

表。中でも全員で実施したサッカー部のフロアは、最後は観客も巻き込んだダンス披露となり、見事優勝を飾った。サッカー部のフロアは4種目中3種目が優勝となり、日頃の団結力が表れた結果となった。



## 1年生工場見学

9月2日、(エネ) (日) と(日立GLS) (多賀) の2事業所にご協力いただき、貴重な体験をさせていただきました。現在コロナ禍で、また業務多忙の中で、本校生の見学を受け入れてくださった事業所の皆様と日工同窓会各支部の皆様は御礼申し上げます。この見学の目的は、1学年後期10月からの科分けに関するキャリア教育として、「工場を訪問し、実際に現場を見学すること」で、

より正しい認識を持たせること、「自分のキャリアを考えさせ、科選択につなげていけるようにすること」である。生徒から集約した、見学しての感想から何点か紹介させていた。だ

- ・各場所安全に関するスローガンがあり、安全の大切さが伝わってきた。
- ・大きな仕事をしている人の話を聞き、仕事への責任を感じる事ができた。
- ・初めて実際に工場の現場を見せた。ただ、将来の仕事に対するイメージが湧いた。
- ・皆さんが真剣に、使命感を持って働いている様子が分かった。

1年生は入学して半年が経過したが、このような経験をする事ができたことで、他校には無い「日専校



で学んでいる醍醐味」を感じることができたと思う。学校での教育を元に、事業所との連携を活かして、各事業所へ優秀な人材を送り出せるよう指導していきたい。

## 2年生リーダー新役員研修会

10月の後期から、3年生が学校を離れ、各工場で終日現場実習が始まり、学校は2年生が主体の体制に変わる。そのため、部活動のリーダー、日専寮の役員、生徒会の役員をそれぞれ3年生から2年生主体に引き継ぐべく、9月から10月に寮などで各研修会を実施した。

この1年間の振り返りや反省、これからの1年間の目標、計画などをグループごとに議論し、最後に全体で発表して内容を共有した。

3年生の旧リーダー、旧役員には、



この1年間、コロナ禍で例年ない制約の中、難しい運営を実行してくれた。その努力に対して心より感謝したい。新体制には良き伝統を引き継ぐと同時に、改善を実行し、生徒自身が有意義な学校・寮生活を送れるよう、リーダーシップを発揮してほしい。

生徒会新会長 2年溶接科 佐藤 琉  
私は1年生の時に生徒会の総務に任命され、この度は会長に任命いただきました。まだまだ自分自身に足りていない部分も多く、不安なこともありますが、仲間たちと協力して日専寮を盛り上げていきたいと思えます。また、生徒全員が各工場で戦力となるように、先生方、生徒からの意見を積極的に取り入れ、生徒会から様々なことを発信していきたいと思っております。一年間、よろしくお願ひします！

寮友会新会長 2年溶接科 工藤 未来生  
不安なことはありますが、昨年の改善点から見直していき、新しい行動をして、より良い寮をつくっていただけるように頑張ります。寮生活はあまり目立たないと思いますが、寮生活を私たちの一番の成長の場とし、日専校生としての高い基準をつくり

不安なことはありますが、昨年の改善点から見直していき、新しい行動をして、より良い寮をつくっていただけるように頑張ります。寮生活はあまり目立たないと思いますが、寮生活を私たちの一番の成長の場とし、日専校生としての高い基準をつくり



(10頁の続き)

上げていきます。これからの日専校生の成長を感じていただけたら嬉しいです。今後も寮生活を通じて成長を続け、会社で必要とされる人材を目指して頑張っていきます！よろしくお願いたします。

### 技能士2級電子機器組立て

技能検定「2級電子機器組立て作業」の資格取得をめざし、3年電気科の全30名は8月28日に学科試験、9月6日に実技試験に臨んだ。本校で行われた学科試験では、全員が日頃の学習成果を発揮できた。実習棟の電子実習室で行われた実技試験では、本番特有の緊張感が漂う中、4月からの電気実習を通して習得した技能を存分に発揮し、全員が課題を

提出できた。

今年度は昨年まで実施していたものづくりマイスターによる外部指導から日専校職員による指導に変更した中で、生徒の技能習得の効率化を図るために、IT機器を活用し、同時に「工場で活きる技能習得」をテーマに取り組んだ。今後は、これまで習得した技術・技能を、10月から始まる工場実習で生徒各人が発揮することを期待する。なお、本受験結果は、9月30日に茨城県職業能力開発協会HPに掲載され、24名が学科、実技ともに合格した。

### 3年生工場実習前面接

#### 工場実習開始

日専校の生徒は、他の高校へ進学する場合と異なり、就職も含めた上で入学を決意する。その意味では人より早く人生における重大な決断を下さなければならぬ。そして中学を卒業し、本校入学時に寮に入る家を離れ、それまでの庇護下の生活との大きな変化を経験する。その後約2年半、なんとか順応しながら、実習・勉学・部活動に励む。

2020年7月、コロナ禍で延期を余儀なくされて入学した生徒たちも、今年3年生になった。9月に実習先工場の方との面接、10月に工場実習開始と、この2ヶ月、緊張と新たな環境の変化を経験し、改めて身の引き締まる思いをしていることだ

ろう。

実習期間を経て、社会人になればさらなる困難は必ず訪れる。その一つ一つに、これまでのように誠実に向き合い、対処し、大きく成長してくれることを期待する。

### 1年生社史見学会

台風14号の影響が残る9月20日、1年生の社史見学会を実施した。当初、熊野神社参拝が行程に入っていたが、風雨の強まる時間帯に参拝がぶつかっていたため、やむを得ず延期した。結果、今年度は日鉾記念館と日立オリジンパークの2ヶ所の見学となった。特にオリジンパークでは、2グループに分け、案内者をつけて頂くなど、至れり尽くせりの待遇で非常に実りある見学となった。



合わせてスマホで回答するクイズも出たため、生徒はみな興味を持って見学に臨んでいた。日専校では、この見学会を会社と学校の歴史を实地で学べる貴重な機会ととらえ、今後も継続実施していく。

### AutoCAD基礎講座

9月20日、21日、日専校実習棟の視聴覚室において、AutoCAD基礎講座を開催し、3年生の技能五輪候補生および希望者19名が受講した。日専校では2年生までドラフターを使った手書きの製図実習を行っているが、技能五輪の職種および事業所の職場でもCADを使った製図があることなどから、2021年度から本講座を開催している。



CADの機能を十分にマスターするまでには達しなかつたが、受講生は高い理解度と満足度を得られ、興味を持って楽しみながら作図と読図を学べる有意義な体験になった。

### 1年生安全体感研修

10月に日立事業所高等職業訓練校実習場で、1年生全員が6グループに分かれて、VR体感教育を受講した。安全の概要説明やVR教育を受け、日常では体感できない貴重な経験となった。今回の受講で生徒たちの安全意識も更に向上すると考える。

1年電気科 海老沼 凜乙

安全概要では、講師の方がスライドを用いて、何故、安全が職場で重要視されているのか、より深い所まで説明していただき、とても参考になりました。実際に工場で行われているRKY活動表と、私達が日専校で使っているものを比べて、工場の方は点数化されていて、条件を満たさないと作業が出来ないなどの厳しい基準が定められていて、工場の安全意識の高さに衝撃を受けました。

VR教育では飛来落下、階段転倒感電の3つの災害を体験しました。事故が起きた時の衝撃や音がリアルに伝わってきて、災害の怖さを改めて学びました。実際に起きた事例に対して原因を考えて対策を練り、討議する時間では、私には無かつた発

議する時間では、私には無かつた発

(11頁の続き)

想が出て、視野を広めることが出来ました。

私達1年生は2年後に工場実習が控えています。その時、今回の安全体感で経験したことを思い出し、危険な思いをしないようにしていきたいです。

1年電気科 北川 蒼衣

私は今回の安全体感でたくさんの方を知り、学びました。まずは災害の怖さです。今回の安全体感では飛来落下、階段転倒、感電と3つの災害をVRで体感しました。とてもリアルで、絶対にこんな思いはしたくないと、改めて災害の怖さを実感しました。次に安全への意識の高さです。実習でのRKYや安全の時間でのKYTシートとスライドの作成



など、日専校に入ってから様々なところで安全に対する意識を高めてきました。しかし、安全概要で職場でのRKYの質の高さを知り、まだまだ私達の安全への意識レベルが低いと感じました。

これからのRKYや授業でより安全への意識を高められるよう努力していこうと思います。私達1年生は科分けが終わり、2年後には工場実習が始まります。その時、職場の戦力として活躍できるよう日々精進していこうと思います。

### トヨタ工業学園交流会

10月25日、26日にかけて、トヨタ工業学園から職員生徒が日専校に来校され、交流会を実施した。トヨタと日立、双方の成長につながる機会作りを目的とし、職場で戦力になるために何が必要かを考え、日常の取り組みにつながることを目標とした。近年はコロナ禍によりオンラインでの交流会であったが、2年ぶりに対面での実施となった。生徒たちは緊張した面持ちでスタートしたが、すぐに意気投合し、活発な交流会となり、グループディスカッション、意見交換、実習場の見学で交流を深めた。次回の交流会までに、会社で戦力になるための取り組みを実践し、それを互いに共有することとした。

生徒会会長 2年溶接科 佐藤 琉  
私はトヨタ工業学園との交流会を

通して様々なことを感じました。1

つは意外と共通している部分があるということ。トヨタでは各人が戦力・リーダーになるために、私達日専校生と同じ意識を持って生活していることがわかりました。他にも指差呼称(日専校との違いはあった)などを行い、安全に注意していることも共通していました。一方で違いもありました。トヨタの訓練生は主体性に重きをおいて生活していますが、日専校生はその面はあまり感じておらず、そこは改善していくべきと痛感しました。また、トヨタでは、様々な行事で学成会(日専校の生徒会に相当)などの役職をもたない生徒にリーダーになってもらい、学園全体を底上げしていることもわかりました。様々なことを感じただけで交流会を終わってしまったように、生徒会と寮で連携して、日専校でも全体の力を底上げしていきたいです。

寮友会副会長 2年溶接科 黒田大貴  
初めて私達以外の企業内学校との交流で、違った意見や取り組み、または似ている所など、様々な視点で意見交流が出来ました。それによって、私達が企業内学校で成長し続ける意味を再確認が出来、工場実習に行くまでの期間で、自分出来ること、やるべきことを徹底していきたいと思えます。また、自分自身だけではなく、学校、寮の全体をより良

くしていくために、私達がリーダーとなつて、主体的に動いていきたいと強く感じる事が出来ました。それを実現させるためにも、私自身も行動を徹底していきたいと思えます。



### 日専祭保護者会

天候にも恵まれた11月19日、生徒保護者のみに来校を限定し、コロナ感染対策を講じながら、日専祭保護者会が実施できた。午前中は各科に分かれ、日専校の代名詞とも言える実習授業で、生徒たちの真剣に学ぶ姿をお見せした。授業参観後は体育館にて、校長あいさつや諸連絡を主とした保護者全体会、日専祭として生徒たちによるクラスや部活発表等を行った。約1時間の短い日専祭であったが、寸劇・動画・ダンス・ラ

イブ演奏を交えた楽しい時間となつた。

日工同窓会より4名の先輩方もお越しになり、皆様の会費で用意した、いただいたギフトカードや品物が当選する抽選会を大いに盛り上げてくださった。同時に行われている、担任と保護者との面談で、自分がどのよう話題になっているかは露知らず、生徒たちは元気に騒ぎ、最後の後片付けまで着実に行えた。その後、彼らには後期中間テストが待っている。



### 入学試験

2023年度高等課程入学試験を12月7日、8日に、茨城県は本校とつくば市、宮城県仙台市、山口県下松市の4会場で実施した。全国的に新型コロナウイルスがまだ予断を許さない中、感染防止を施した上での

(13頁へ続く)

(12頁の続き)

試験となったが、受験者はひとりの  
欠席もなく、数学、国語、英語の学  
科試験に加え、個人面接を予定通り  
実施できた。今後、年内に選考と合  
格内定者の発表を行い、年明け1月  
に入学予定者が決定する。入試面接  
では生徒受け入れの事業所に、面接  
員として参加して頂いており、御礼  
申し上げます。

日専校職員投稿

人の成長に関わること 齊藤 慎  
我が母校に赴任して早4年が過ぎ  
ましたが、まさか日専校で働く日が  
来るなど夢にも思っていないでし  
た。しかし今では「人の成長過程に  
関われる」ことに大きな魅力を感じ  
ています。入学式では「初々しさが  
残る少女少女で、幼さの抜けきらな  
い表情」をした生徒たちが、3年間  
の学校生活を過ごし、卒業する頃  
には「頼もしく成長した立派な青年で  
自信に満ちあふれた表情」を見せて  
くれるからです。生徒の成長を身近  
で見ていることができるのは何よ  
り喜ばしい事であり、この仕事をし  
ている意味に繋がると考え、日々を  
過ごしています。もちろん、この成  
長を支える陰には大きな苦勞があり  
ついため息が漏れてしまうこともあ  
りますが。  
日専校では、成長を促す道具の  
一つである手帳を使って、目標設  
定、計画、行動、振り返りを行って

います。私は生徒に目標を立てるこ  
との大切さを説くときに、幕末の思  
想家であり教育者である、吉田松陰  
先生の名言を紹介しました。「志定  
まれば、気盛んなり」という言葉  
です。これは「人は目標が決まれ  
ば、意気が高まり、その実現に向け  
て全力を尽くすことができる。どの  
ような障害にも立ち向かって、目標  
を実現できるであろう」という意味  
です。またもう一つ「夢なき者に理  
想なし、理想なき者に計画なし、計  
画なき者に実行なし、実行なき者に  
成功なし。故に、夢なき者に成功な  
し」という言葉です。自分の目標を  
本当に実現したいのであれば計画し、  
それに従った実行が必要となります。  
ただ漠然と願っているだけでは何も  
始まりません。計画することで実行  
につながり、実行するから継続する  
ことができます。継続のおかげで目  
標が達成できるのです。目標、計画  
実行、そして継続があつて、はじめ  
て夢は叶うのだと。

これらの言葉を紹介したときに、  
生徒たちは私の話をどのように感じ  
たのかは分かりませんが、後日、手  
帳の裏表紙の一番目立つページに、  
名言のメモ書きがある生徒に気が付  
きました。その生徒にとつて、私の  
話が少しでも心に残り、響くところ  
があつたのだとすれば、こんなに嬉  
しいことはありません。またこのこ  
とが心の成長の糧になってくれれば

と思います。

そして今年も大きな夢と希望を  
持った生徒たちが、母校を巣立って  
いく時期となりました。日専校の先  
輩の皆さん、「後輩の成長過程に関  
われる」ことに魅力を感じているの  
は、皆さんも同じことかと思いま  
すので、これからも後輩の育成、母校  
発展のために、ご指導ご鞭撻を賜り  
たく、謹んでお願い申し上げます。  
.....

日専校野球部  
インタビュー

2022年7月14日に行われた、  
第104回全国高校野球選手権茨城大会  
対常総学院戦と、9月10日に行われ  
た、秋季関東高校野球茨城県大会  
対勝田高校戦について飯塚監督と上



田主将(3年生)から、お話を伺った。

「試合結果」

場所 日立市民運動公園野球場  
対常総学院 6-5 (7月14日)  
対勝田高校 13-2 (9月10日)

◇第104回全国高校野球選手権  
茨城大会について◇

◇対常総学院戦について◇

Q常総学院戦について試合の率直な  
感想をお聞かせください。

飯塚監督……この試合の中心と  
なっている3年生は、新人戦・春の  
センバツと県大会では勝ち進むこと  
ができませんでした。ただ、その中  
でも例年よりも地方のあるチームで  
あることは分かっていたので、この



飯塚監督と上田主将

夏こそはと思っていました。一回戦  
の対ウェルネス高校戦で序盤は苦し  
い展開でしたが何とか勝利し、気持  
ちに余裕を持った状態で二回戦へ臨  
みました。今年の3年生は上田主将  
を中心にやってやる!!という想いが  
前面に出ていました。それをこの試

合で、思う存分に発揮してくれたと  
思います。先制点を取られて、ひっ  
くり返し、また返されという展開で  
したが、点数を取られても、心が折  
れずに取り返すというメンタルの強  
さが備わっていましたね。勝ちたい  
!!なんとかしたい!!やってみよう!!と  
いう気持ちが前面に出た試合だった  
のかなという感じを受けました。

Qこの試合は積極的なプレーが印象  
的でした。試合中のアドバイスや  
日々の練習でのご指導について、お  
聞かせください。

飯塚監督……相手が強い、弱い、  
相手投手が良い、悪いではなく、  
ファーストストライクから積極的に  
打ちに行くというのは攻撃の目標の  
一つとしており、この試合だけでな  
く、年間を通して実践しています。  
チームのスローガンがアグレッシブ  
ベースボールであり、まずは積極的  
にとというのがチームの基本となつて  
います。

Qサヨナラタイムリーを放った網野  
選手はどんな選手でしょうか。

飯塚監督……網野選手は、どちら  
かといえばヤンチャ坊主な感じだす  
が、野球に取り組む姿勢は目を見張  
るものがあり、周りのメンバーにも  
恵まれているのもありますが、周り  
と助け合つて練習に取り組んでいま  
した。そして大舞台で殊勲打を打ち  
練習の成果を出すことが出来たので

(13頁の続き)

はないかと思えます。

Q常総学院戦について試合の率直な感想をお聞かせください。

上田主将：試合の前日から、いや、抽選で常総学院との試合が決まった日から、やってみようぞ!!何か起こしてやるぞ!!という気持ちで全員にあり、試合当日まで、部員全員が試合を楽しみにしていました。試合そのものを楽しめたことが勝利に繋がったのかと思います。

Q試合で印象に残ったところをお聞かせください。

上田主将：エラーが失点に繋がった場面がありました。その次の回の飯塚監督から絶対取り返すぞ!!という激励により、部員全員の闘志に火が付きました。  
Q上田主将から後輩の皆さんへ、エールをお願いします。



3年生が主力というところもあり、試合に出る機会も少なかったとは思いますが、2年生、1年生の皆さんには良いところが沢山あり、新主将の佐野、工藤にはチー

ムを牽引する力があると思えます。夏の大会に向けて、チーム一丸となって頑張ってもらいたいです。

◇秋季関東高校野球茨城県大会について◇

Q土浦日大との試合。敗戦の要因についてお聞かせください。

飯塚監督：敗因としては、常総学院戦にて、通用していたうちのエースの緩い変化球が、日大の選手にうまく対応できてしまったところにあります。強い相手と対峙するには、緩いクセのある変化球をコー



ナーにコントロールしなければなりません。今回は見切られてしまいました。このような展開になった場合は、速球が有効となります。速い球を武器とする選手を育成できなかったですね。相手チームに研究され、対策をされてしまい、自分たちのリズムを崩されてしまったのが大きな敗因だと思います。攻撃面では相手投手の力のあるボールに対応しきれなかったのも敗因の一つです。

140km/hの力のあるボールを投げられる選手と、その速さのボールを打ち崩せる選手の育成が今後の課題になります。日大の監督は、10年前に下妻二高の監督をされていました。その時に第二シードだった下妻二高に勝利したことがあり、またやっつやろうという気持ちがありました。しっかりと研究されてしまいました。

◇対勝田高校戦について◇

Q勝田高校戦について試合の率直な感想をお聞かせください。

飯塚監督：勝田高校のバッテリーは夏の大会を経験しており、チームの状況を考慮して、5点、6点の試合になるかと計算していましたが、2年生、1年生主体の新チームが思う存分力を発揮し、大量得点に繋げてくれました。結果としては13得点を挙げることが出来ましたが、チームとしてできることを再認識できた試合になりました。出場機会を

多くは与えられなかった2年生と1年生ですが、彼らには段階を踏んでここまで成長しようという目標を掲げて、そこまで到達してくれました。部員達の自信にも繋がったと思います。

Q緩急のある投球をしていた相手投手の攻略についてお聞かせください。

飯塚監督：積極的にファーストストライクから振ってつけていました。打撃の苦手な選手もバントを絡めてつないでくれて、また、勝田高校戦は盗塁がキーポイントになったと思います。どんどん恐れずに、次の塁を積極的に、アグレッシブに狙いにいってくれたのが功を奏したのかなと思います。

Qホームランを放った小俣選手はどのような選手でしょうか。

飯塚監督：小俣君は性格的に野球に向いています。性格的には、ヤンチャに近いかなと思いますが、非常に確かな打撃をする選手です。チームとして一番バッターを決めかねていましたが、彼の打撃力に賭けてみようと思えました。ヘッドスピードも速く、小柄な体格ではありますが、長打力があり、今後期待している選手です。彼は三つ子の兄弟で、三人とも同じシニアリーグでプレーをしていて、三人がそれぞれ違う学校に進学し、異なる環境で野球を行う各々が活躍しています。2年後は話題になるのではないのでしょうか。

Qシートノックの際の声出しのルールをお聞かせください。

飯塚監督：3年ほど続けています。守りに対して、積極的に声出しすることによって、集中力を高めています。守りを重視して、というのもチームの強化ポイントの一つになっていきますので。守備面でも攻める姿勢を大事にしています。二ユージーランド代表のラグビー選手が士気を高める「ハカ」のようですね。

◇総括◇

Q飯塚監督から部員の皆さんへの労いの言葉をお願いします。

飯塚監督：3年生中心のチームで10年ぶりの4回戦進出を果たしてくれました。欲を言えば23年ぶりのベスト8、または更にも上へと思いつけてきました。それは達成できませんでしたが、身体的にも、精神面でも苦しい練習をよくこなしてくれました。練習をしたくても、カリキュラム的にできないときもありました。限られた時間の中で、よくやってくれたと思います。時間が無い中、個々人が隙間の時間を見つけ、練習



(15頁へ続く)

(14頁の続き)

も工夫して、取り組んでくれた結果、10年ぶりに4回戦進出できたのかと思います。そういう大変な中でよくぞ頑張ってくれたな、という気持ちでいっぱいです。また、残念ながら夏の大会でメンバーから漏れた3年生もいて、漏れたメンバーからのサポートも受けた事が、今回勝ち上がった要因の一つかなと思います。今回レギュラーに入れなかった部員の皆さんも、社会に出たらは会社のレギュラーを目指してほしいと思います。本当に、ご苦労様でした。

**Q 今後の取り組みについてお聞かせください。**

飯塚監督……まずは地区予選を勝ち上がって、県大会へというところですので、まずは1勝をめざして、準備を進めて、結果を出していきたいというところです。秋が終われば、春、夏に向けて、身体を大きくする努力をさせる部活動をしていきたい、というところです。夏の大会で、彼らの成し得なかったベスト8以上に向けて、準備をしていきます。

取材…齊藤 健太(92卒・日高)  
撮影…鈴木 光彦(78卒・日高)

